

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：えびち保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：江渕 静香	定員（利用人数）：64名(64名)		
所在地：本園：〒240-0052 横浜市保土ヶ谷区西谷町1000-1 分園：〒240-0000 横浜市保土ヶ谷区上菅田町32-1			
TEL：045-383-0600	ホームページ： https://ebuchikids.net/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2008年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人パピーランド			
職員数	常勤職員： 27名	非常勤職員： 2名	
専門職員	保育士： 20名	看護師： 1名	
	管理栄養士： 2名	栄養士： 2名	
	保育補助： 2名		
施設・設備の概要	（居室数）		
	（本園）		
	2～5歳児室	1室	（本園） 木造2階建て 建物延べ床面積 150.59㎡ 園庭 79.2㎡
	調理室	1室	
	トイレ	3か所	
	事務室	1室	
	職員休憩室	1室	
	（分園）		
	0～1歳児室	1室	（分園） 鉄筋造り5階建ての1階部分 建物延べ床面積 78.92㎡ 園庭 なし
	沐浴室	1室	
	調理室	1室	
	トイレ	2か所	
	事務室	1室	
職員休憩室	1室		

③ 理念・基本方針

【保育理念】

児童福祉法に基づき「保育を必要とする」乳幼児の保育を行います。保育にあたっては、「児童憲章」「子どもの権利条約」に基づき、【子どもの人権や主体性、そして個性を尊重】し児童ひとりひとりの最善の幸福のために日夜、保護者や地域社会と力を合わせ児童の福祉を積極的に邁進する事を保育理念として掲げます。合わせて、地域における家族援助を積極的に行うことにより、公的施設としての社会的責任を果たしていきます。

【基本方針】

「保育所保育指針」に依拠した上で職員は、子どもや家庭に対してわけへだてなく保育を行うこと、又人権を尊重しプライバシーを保護することを基本原則として保育に臨みます。さらに、児童の最善の利益を願うため職員は、子どもの心を大切にし、常に子どもの視点に立って接していくなかで、子どものもてる可能性を、子ども自身の力で開花させていく保育の実践に全力を注ぎます。

【保育目標】

～丈夫な身体と豊かな心を育てる～

1. 個性豊かな子ども
2. 情緒豊かな子ども
3. 思いやりのある子ども
4. 何事にも挑戦できる子ども
5. 主体性・自主性のある子ども
6. 自分の意思をはっきりと伝えられる子ども
7. 挨拶ができる子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

社会福祉法人パピーランドえぶち保育園は、2008年4月に開園し、本園と分園に分かれています。本園は、相模鉄道本線西谷駅から徒歩5分の住宅地の中にあり、木造2階建てのログハウス風の建物で、保育室はすべて1階にあり、2～5歳児44名（定員44名）が使用しています。分園は、本園から徒歩5分の県道に面した5階建てビルの1階にあり、0～1歳児20名（定員20名）が使用しています。本園周辺には横浜ブランド農産物「はま菜ちゃん」の野菜が多く取れる畑があり、子どもたちはジャガイモやサツマイモ掘りにも利用しています。

【園の特徴】

保育目標に「丈夫な身体と豊かな心を育てる」を掲げ、コロナ禍の中でも、感染症防止に十分に配慮し、積極的に散歩や公園探索等の戸外活動を行っています。また、地域に開かれた園を目指して、高齢者との交流や子ども食堂事業等に力を入れています。当園ではライブカメラサービスを導入し、ウェブ上でプライバシーを守りながら、保護者が保育室内の子どもの様子をみることができるようになっています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月8日（契約日） ～ 2023年2月27日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2017年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 子どもに寄り添い子どもの発達を支援していく丁寧な保育

0歳児では、子どもが安心して過ごすことができるよう、応答的な関わりをしています。「泣かなくて大丈夫、いいよ、どこにもいかないよ」と言いながら抱っこしたり、膝に抱き上げながら穏やかな言葉をかけるなど、職員は子どもの声のトーンや表情を大切にし、子どもたちと関わりをもっています。子どもの目線に合わせて壁面にスイッチや鏡の実物を設置し、保護者が自宅にいる時使うスイッチや鏡に興味を持たせたり、自分でもやってみようという意欲を引き出しています。

1～2歳児では、子どもの自我を受け止め、園庭や散歩先等を利用して子どもの興

味関心・発達に合わせて探索活動が十分にできるようにしています。おもちゃは子どもの目線に合わせて置き、自発的に取って遊べるようにしています。職員と一緒に遊んだり見守ったりしながら、友だちと同じ空間で同じ遊びを楽しめるようにしたり、ほかの子どもとの関わりが持てるようにしています。

2. 子どもが安心して食べることのできる食事の提供と職員の関わり

0歳児は、子ども一人ひとりに職員が付き、離乳食をスプーンで口に運んでいます。1歳児は、職員が援助をしながら、一人ひとりの食べる量を把握しています。2～5歳児は、全員に同じ量の食事を配りますが、2歳児については職員が食事の様子を見ながら調整しています。3～5歳児は、それぞれ必要に応じて子どもが配膳場所に行き、職員に少ない場合は増やしてもらったり、多い子どもは減らしてもらっています。お代わりはそれぞれ配膳場所に食器を持っていき、栄養士にお代わりを入れてもらっています。栄養士は毎日交代で保育室に入り、子どもたちのお代わりの対応を行い、「これくらいでいい?」「もう少し入れて」等と会話をしながら、子どもたちの食の進み具合や嗜好等を確認しています。

3. 保育の質の向上に向けての職員の処遇改善

園は「職員の笑顔」なくして「子どもの笑顔」なしという考えのもとに、職員の処遇改善に注力しています。働きやすい職場づくりのため、充実してきた人員配置に基づく時間外労働の削減、持ち帰り業務の廃止、システム化による書類の削減等を行っています。処遇の面では、年3回の賞与の支給や、昨年度には有休取得に伴う臨時手当を創設し、支給しています。また、職員が外部の研修を受講し易いように、勤務時間内の受講を基本として、時間外となった場合でも時間外手当を支給し、交通費、有料の研修費用も法人負担としています。職員は時間的余裕と共に心にも余裕をもって、保育の質の向上に向けて取り組んでいます。

4. 保護者懇談会や個別面談を通しての保護者との連携

コロナ禍もあり、保護者の負担を考慮して、保護者全員を対象とした個別面談や保護者懇談会は実施していません。園運営を円滑に進め、保護者との連携を深めていくには、保護者への保育方針の周知・徹底、保育の計画や取組等の情報提供等、個々の保護者との情報交換を行う場が不可欠です。このため、保護者全員を対象とした個別面談や保護者懇談会の定期的な開催等、保護者とのコミュニケーションの機会を工夫し、保護者とのいっそうの連携の強化が期待されます。

5. 中長期計画を反映した単年度事業計画の策定と実施状況の評価

運営法人および園は、2022年度から2024年度までの3年間の中期計画を策定し、3年間の目標として「保育の質の向上」「人材の育成ならびに組織の見直し」等、8つの項目を掲げて、実現に取り組んでいます。しかしながら、単年度の事業計画については、中期計画を反映した具体的なものとなっていません。

単年度の事業計画については、中期計画を反映した具体的なものを策定し、数値目標や具体的な成果等を設定すること等により、実施状況の評価が行える内容とすることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

5年ごとの第三者評価受審も今回で3回目となりました。今回はゼロベースで臨んだため、当保育園の良いところ、改善を要する内容を改めて再確認するよい機会となりました。

主任保育士を中心として、項目ごとに自己評価を行い、園内のすべての職員が園長のもとにが保育の質の向上にとって大切なものか、また不適切なものかを把握、認識することができました。

今後とも質の高い保育、地域に向けた良い活動ができる保育園を目指し努力していきます。

さらに横浜グッドバランス賞の受賞を契機に、職員に働きやすさと高処遇の環境の中で、子ども達が自己肯定感がもてるよう保育に邁進していきます。

社会福祉法人 パピーランド
理事長 江渕 武雄

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり